

教育支援センターだより

第19号 発行日 平成29年1月31日

子育てや家族、学校のことでも悩んでいませんか？



【学校生活に関すること】

- ・ 不登校のこと、登校しぶり
- ・ 集団にうまく入れない、友達ができない。
- ・ いじめ
- ・ 勉強についていけない。

【子どもの成長・発達に関すること】

- ・ 落ち着きがなく友達とのトラブルが多い。
- ・ こだわりが強い。

【養育に関すること】

- ・ 子どもの気持ちを理解したい。
- ・ 反抗的になり接し方がむずかしい。
- ・ 子育てに自信がもてない、子育てが不安。

ひとりで悩まず、お電話ください

★ご相談の流れ

受付の電話 ☎:60-1899

- ・ 今一番お困りのことや相談の内容について簡単におうかがいします。
- ・ センターに直接来て相談したいか、電話で相談したいかおうかがいします。
- ・ 連絡先などをうかがい、実際に教育支援センターに来る日程や時間を決めます。

電話相談

ご相談の内容によっては、お電話だけで終了する場合があります。

初回の相談

- ・ お電話で聞いたお困りのことについてさらに詳しくうかがっていきます。
- ・ うかがった内容をもとに見立てをお伝えします。
- ・ 教育支援センターでどのようなことができるか、方針をご提案します。

終了

ご相談の内容によっては1回で終了する場合があります。

- ・ フォローアップ
- ・ 他機関の紹介

継続して相談する場合

☆ 保護者の方とは…

お子さんについての理解を一緒にしながら、親御さんが責任と自信を持って子育てに取り組めるようサポートします。

☆ お子さんには…

カウンセリングやプレイセラピー【遊戯療法】で気持ちの安定をはかり、自分自身や自分の行動についての理解を深めていきます。

* お子さんの理解をより深めるために、相談のなかで取り入れることがあります。

- ・ 発達検査、知能検査など
- ・ 医療相談【囁託医による】
- ・ 学校、病院など他機関との連携、連絡

相談の終了

教育支援センターは、幼児期から思春期のお子さんの豊かな健全育成のため、一人ひとりの成長発達を支援する機関です。教育相談をはじめ、不登校のお子さんの適応指導、帰国・外国籍・国際結婚家庭のお子さんの相談支援、市立小・中学校でのスクールソーシャルワーカーによる支援などを行っています。

★11月25日に開催いたしました講演会の内容を抜粋して掲載いたします★
子育て中の保護者のみなさまに、お子さんの成長や発達を見守る上で参考としていただければ幸いです。

発達に偏りのある子どもの理解とかかわり方 ～医療現場から見た子どもたち～

川崎葉子 先生 (むさしの小児発達クリニック院長)

◆◆◆育てづらいと感じる子どもの背景◆◆◆

～発達に偏りがある子どもの行動～

発達に偏りがある子どもの中には、偏食が多かったり、同じ服を着たがったり、気持ちが通じなかったりと、日々の生活の中で「育てづらいなあ」と感じる場面があります。

◆ 育てづらいと感じる場面

<基礎的な身辺自立>

- 食事、排泄、着脱などの自立が
他児に比べて遅い



<行動面>

- 極端に動きすぎる
(急な飛出し、迷子など)
- 集団行動がとりづらい
(一人遊びが多い、一斉指示が入りづらいなど)

<言語面・情緒面>

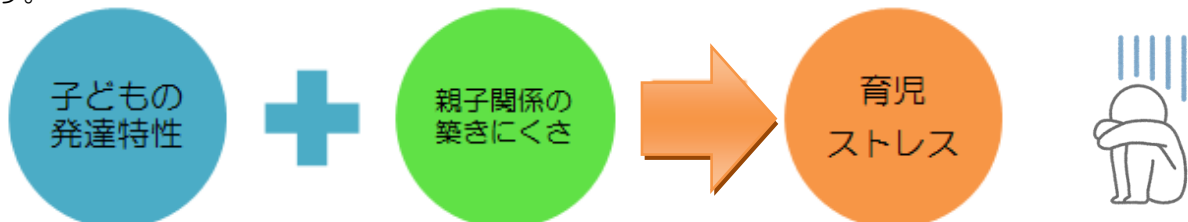
- 言葉での意思疎通がとりにくい
- 本人なりのこだわり、マイルールが多い
(どうしてもやり方を変えられない、やめられないなど)
- 保護者が対応しづらいかんしゃくがある
(突発的であったり、前触れが分かりづらいなど)

◆ 育てづらい子と母親との関係

発達に偏りがある子どもの背景には、自閉症スペクトラム (Autism Spectrum Disorder : 以下 ASD) の特性をもっていることが関係しているのではないかとされています。そしてそのことが、「育てづらさ」に何らかの影響を与えているとの仮説があります。

母親自身は、子どもを育てることで少しずつ母親の力を身につけていきます。しかし、発達に偏りがある子どもの場合、「育てづらい」、「関わりづらい」ことで親子関係が築きにくいことがあるようです。

子どもがもつ ASD の特徴・親子関係の築きにくさが重なると、母親は「育てづらさ」を感じ、育児ストレスにつながるようです。親も子どもに育てられて親になっていきます。「育てづらい子」＝「親育てをしづらい子」ともいえます。



◆◆◆育てづらいと感じる子どもへのかかわり方◆◆◆

◆ 自閉症スペクトラム（ASD）の特徴とは？

ASDは、以下の2つのようなことが大きな特徴としてあげられます。

① 社会性や、コミュニケーションに問題をかかえている

例) 視線が合いにくい、言葉のオウム返しが多い、雰囲気や相手の気持ちがあつかめない、人との適切な距離があつかめない など

② 常同行動や強いこだわりがみられる。感覚に偏りがあり、敏感だったり鈍感だったりする

例) 手をヒラヒラさせたりピョンピョン跳ぶ行動を繰り返す、道順や物の置き場所にこだわる、未知のことに強く抵抗する、気持ちの切り替えが苦手、一番でないといや など

聴覚・触覚・視覚・痛覚などの感覚に偏りがあると、日常生活の中で不快さを経験する機会が多くなります。

背景	行動例
聴覚が敏感	掃除機の音や赤ちゃんの泣き声を嫌がる、人ごみを嫌がる
触覚が敏感	糊・粘土・砂が触れない、他人と手をつなぐことを嫌がる、抱っこされるのを嫌がる、同じ服しか着ない
視覚が敏感	特定のテレビ番組を嫌がる
痛覚が鈍感	ケガをしても泣かない

保護者の方も対応に困ることがあると思われませんが、お子さんが不快なため嫌がっていたことも、「試してみたら意外とよかった」という経験が積み重なることにより、嫌がらなくなる場合があります。本人の興味のあること・好きなことを取り入れながら、少しずつ慣らしていくとよいでしょう。

◆ 感覚の偏りからくる偏食について

偏食にも感覚の偏りが大きく関わっており、食感や匂い、見た目などに敏感に反応している場合があります。成長につれて感覚を司る脳も発達し、偏りが小さくなってくると考えられるため、偏食は焦らず長い目でみて対応していきましょう。

また、偏食は経験からくる思い込みが原因となっていることもあります。(例：最初に食べたときに嫌な思いをした など) その場合、成長して栄養のために必要なものだとわかるようになると、食べられるようになることがあります。

食べたくないものを無理に食べさせられることは、子どもにとって傷つく経験となりますので、食事の時間が苦痛な時間にならないような工夫が大切ですが、頑張っ^て食べて周囲の人にほめられる経験をする^{こと}も自信を育てることにつながります。嫌いな食べ物も「一口だけ食べてみよう」等の声掛けをしながら、少しずつ慣らしていくとよいでしょう。

◆ ASDの特徴を持つ子どもへの支援の方法

☆ 言われたことが理解しにくい



伝えるときは目で見えるよう工夫する＝視覚支援

例) 予定ややるべきことは書く、約束事が守れたらご褒美シールを貼って成果が目で見えるようにする など

☆ 言葉でのコミュニケーションが苦手 → **気持ちを代弁して伝える**

例) 「本当は～だったんだよね」「〇〇って言いたかったのかな」

☆ 注意しても行動を切り替えられない → **注意や指導をポジティブな声掛けにする**

例) 「ダメだよ」というより「～してみたらどうかな？」など、してほしいことを伝える

☆ 一度に1つのことしか取り組めない
(シングルフォーカス) → **一度にたくさんを求めず、
1つ1つ取り組めるようにする**

例)「周りを見てごらん、みんな〇〇しているよ」など、他のことに目を向けられるような声掛けをする

◆ 幼児期に準備してほしい力

- ・ 基礎的な身辺自立 (自分のことは自分でできる)
- ・ 安定した親子関係
- ・ 同じ年の子どもとの関わり

これらが準備できていると、自分の身の回りのことができる・我慢する力が育つ・自分の気持ちを表現することができる・信頼できる人間関係を築きやすい、という可能性が高まります。

◆◆◆ 発達障害の特性はあっても、日常生活で困らないようにするために ◆◆◆

◆ BAP (Broader Autism Phenotype) という概念

☆BAP：診断するには及ばないけれども、広く捉えるとASDの特性をもつ人たち

発達障害は増えているといわれていますが、実際は、時代とともに、日常生活に適応しづらいASDの特性を持つ人たちが表面化してきたのではと考えられます。さらに、ASDと診断するには及ばない人たち(BAP)が、ストレスなどで「うつ」「強迫性障害」などを発症しクリニックを訪れ、発達障害と診断されるケースが増えてきています。

こうした自閉症的な傾向を持つ人たちが日常生活で困らないようにするためには、ASDと診断されないで済む、BAPでいられるような環境配慮が必要です。「まあこれでいいか」「こんなものだ」とBAP本人と周りが折り合いをつけられるようにしたり、周囲の人がBAP本人の良さを見つけ、何であってもしっかり認められるような深い支援が大切であるといえます。

◇◇～川崎先生からのおすすめ図書～◇◇

『発達障害の子の子育て相談3 学校と家庭で育てる生活スキル』 伊藤久美 著 本の種出版

無断での複製、引用、ネットへの掲載などは固くお断りします。問い合わせなどありましたら、下記までお願いいたします。

発行 武蔵野市教育委員会 教育部教育支援課 教育支援センター
所在地 〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町4-11-37
電話番号 0422-60-1899 FAX 0422-60-1922